

建設工事受注動態統計調査の不適切処理に係る再発防止策検討・国土交通省
所管統計検証タスクフォース（第1回） 議事概要

1. 日時：令和4年1月28日（金）17:30-18:30

2. 場所：中央合同庁舎3号館4階幹部会議室

3. 議事概要：

【国土交通大臣訓示】

- 今般の建設工事受注動態統計調査の不適切処理に関する問題は、国土交通行政と政府統計に対する信頼を揺るがす極めて重大な問題。
- 政策立案や経営判断等の基盤として常に正確性が求められる統計において、長年にわたり不適切な処理が行われていたことは極めて遺憾。
- さらに、こうした問題の発覚後の対応について、検証委員会報告書では、事なかれ主義の現れや隠蔽工作とまで言うかどうかはともかく幹部職員において責任追及を回避したいといった意識があった、という大変厳しいご指摘をいただいた。
- 幹部職員は、こうした事態を一部の部署の問題と片付けてはならず、省全体の問題として重く受け止めて欲しい。
- 本タスクフォースでは、国土交通省の組織をあげてこれから申し上げる三点についてしっかり取り組んでいただきたい。その際は、顧問有識者の先生方のご意見をしっかり受け止めて進めてほしい。
- 一点目は、検証委員会報告書追補に指摘された調査、二点目は、国土交通省が所管する基幹統計および一般統計の点検。三点目は、検証委員会報告書の提言を踏まえた再発防止策等の検討。
- 本タスクフォースのもと、幹部職員、国土交通省の職員一人ひとりが高い意識をもって取り組み、国土交通行政、政府統計の信頼の回復に全力を挙げて取り組んでいただきたい。

【資料説明】

- 松本政策統括官より、建設工事受注動態統計調査の不適切処理に係る検証委員会報告書について説明。
- 事務局より、タスクフォースにおける検討項目、検討体制、統計委員会資料「国土交通省検証委員会報告書及び統計委員会タスクフォース報告書を踏まえた統計的な精査の視点について」を説明。

【構成員・顧問有識者からの主な意見】

- 統計は政策立案と評価の基盤であることを改めてよく認識する必要。
- 統計の連続性のためには、現場の負担が少なく持続可能な体制とフローの構築が必要。技術革新もしっかり織り込んでいく必要。
- 信頼される統計を構築するための不断の改善に係る意見、また誤りを発見した時の意見がしっかりと伝わる組織の構築が極めて重要。
- ある程度業務の余裕がないと業務を見直そうという気持ちにならない。仮におかしいと思ったとしても気づこうとしないような点があるのでないか。
- 遅れて出てくる調査票もきちんと取り込めるシステムを作っておきさえすれば書き直しも必要なかった。
- 集計は現場で、幹部はできあがった統計の解釈・説明に専業していた。集計を含む統計全般の流れを知っている人がいれば、おかしなことにも気づけた。
- 問題を発見すること自体を避けるのではなく、発見し、自分の代で解決する意欲をもって幹部が執務に当たるべき。
- 再発防止だけでなく、建設統計をどう改善していくかということも重要。統計がどのような政策の企画に役立っているのか棚卸しした方が良い。
- 鳥の目と虫の目を併せもち、全体を俯瞰して業務を位置付けられるような専門性を養うことが重要。
- 統計は利用されてはじめて意味がある。利用者の視点に立って統計システムを構築し、利用者からアドバイスいただけるようにする必要。
- 調査票は行政だけでなく、研究者や民間の調査機関が2次的に利用できるようなになれば、もっと違った利用の仕方に目を開かせられるし、エラーが見つかる。若手研究者と定期的に懇談・情報交換することも必要。
- 公的統計のユーザーを絶えず意識しながら統計を改善していく姿勢が必要であり、統計作成のプロセスが適切であるか等、建設統計の改善に向けて、統計の棚卸しを実行することも重要。
- 時代の変化に合わせて、行政記録の活用、民間企業の情報の活用、オンライン化の推進等、報告者の負担を軽減させることも検討が必要。
- 情報処理の技術レベルが低い。省内の情報管理部署が先端的なIT技術を習得して、統計担当に指導する必要。
- 組織体制の見直しと風土の改善が必要。優れた民間企業の仕組みを研究して行政に取り込むことも考えると良い。また、組織体制は時間とともに必ず形骸化することを前提に、不断の改善に向けた仕組みの構築が必要。
- 緻密な業務を行っているがゆえに、単純な手抜きに目が向かなかった印象。再発

防止策のなかで、一番難しいのは風土の形成。風土の形成については具体的に考えていく必要。